

# 『成蹊大学経済経営論集』：注および参考文献表記要領

2020.11.1

## I 注

◇注は脚注とする。

◇脚注には、論文ないし研究ノート全体について通し番号をふる。

◇通し番号にはアラビア数字 (1, 2, 3・・・) を用い、該当箇所につき文字 (スーパースクリプト) でふる。

例 1：・・・という判例もある。<sup>18</sup>しかし以下では、・・・

例 2：His opinion was rather controversial and provoked heated row with others.<sup>18</sup>  
Among them ---

## II 参考文献

◇参考文献は一括して論文ないし研究ノート末尾に掲げる。

◇本文および注で文献に言及するときは、著者名 (出版ないし発行年) という形で、たとえば、斉藤 (1986)、Iwai (2002) のように表記する。

◇末尾の参考文献一覧では、邦文と欧文に分類し、邦文文献は著者名の五十音順に、欧文文献は著者名のアルファベット順に並べる。

◇出版ないし発行年は著者名に続けて西暦で表示 (括弧書き) する。

◇同一著者による複数の著作を掲げる場合、2 本目から著者名はアンダーラインで表示する。

◇同一著者に同じ年に複数の著作がある場合、出版ないし発行年に小文字アルファベットを付す。

◇単行本については、著者 (出版年)、書名、出版地、出版社、該当ページの順で表示する。なお、書名は邦文の場合には二重括弧を付し、欧文の場合はイタリックで表示する。また邦文の単行本については、出版地は省略してよい。

◇雑誌論文 (単行本に収録されている論文を含む) については、著者 (発行年)、論文名、雑誌名 (書名)、巻号、該当ページの順で表示する。論文名は「・・・」 (邦文の場合)、「abcde---」 (欧文の場合) と、雑誌名は『・・・』 (邦文の場合)、abcde--- (イタリック、欧文の場合) と表記する。

例 1：邦文単行本

斉藤忍随 (1986) 『幾度もソクラテスの名を I、II』、みすず書房、140~157 頁

例 2：欧文単行本

Cooter, R. and T. Ulen (1997) *Law and Economics*, 2nd ed., NY: Addison-Wesley Educational Publishers Inc., pp. 162~166.

例 3：邦文論文

浜田道代 (1991) 「代位訴訟 (THE DERIVATIVE ACTION)」、『証券研究』94 巻、99~135 頁

## 例 4 : 欧文論文

Iwai, K (2001a) "Schumpeterian Dynamics: A Disequilibrium Theory of Long-run Profit", in L. Punzo ed., *Cycles, Growth and Structural Change*, London: Routledge, pp. xx~zz.

\_\_\_\_\_ (2001b) "What is a Corporation? The Corporate Personality Controversy and Comparative Corporate Governance", Discussion Paper CIRJE-F-100, Faculty of Economics, University of Tokyo, pp. xx~zz.

\_\_\_\_\_ (2002) "The Nature of Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Function", *The Japanese Economic Review* vol. 53, pp. 243~273.